

# Newsletter

Professors, we are coming to tell you how useful WebCT is!



今回は、コンテンツ作成支援サービスを利用され、2009年度後期にWebCTプレミアムプロジェクトですすめている「授業一回分に相当するコンテンツ」の作成に挑戦されたお二人の先生をご紹介します。

## WebCT 活用事例 (2) : 学生が楽しんで勉強してくれるコースを作成したい

### 基礎物理化学 A (理学研究科 藤原好恒先生)

#### ■ WebCTを知ったきっかけを教えてください。

以前、会議で聞いたことがありました。でもその時は自分にできるとは思っていませんでした。みなさん同じだと思うんですが、ハードルが高く感じたんです。イメージさえもわからなくて。それで、何か機会があれば見せてもらおうと思っていました。誰がWebCTを運営していて、どんな授業で使われていて、どういう成果が上がっているのか。やるとしてもどういうことをすればいいのかわからない…そういう段階だったんです。そういう時に秋元さん (eLS コーディネーター) から話があったんです。

#### ■ WebCTを使ってみようと思われた理由は何ですか。

教員から学生に情報提供し、逆に学生から小テストの解答など情報をもろう、ということが日々頻繁にあります。秋元さんから、「WebCT を利用されたら、e-Learning の特徴の1つである時間にとらわれないという便利な点があるので、先生の目的にかなうのではないですか」と聞き、使いやすそうだと、使ってみようと思いました。

それから、最近の学生はおそらく小学校時代からパソコンを使っていると思われるので、教員が目の前にいなくてもパソコンの画面を使ったやり取りに慣れていていると思うんです。そういう学生さんたちなので、「じゃあWebCTをやきましょう」と紹介した時にそんなに抵抗なくやってくれるのではないかと思います。

#### ■ WebCTを使って気づかれたメリットとデメリットは何ですか。

私の場合は、授業一回分のコンテンツを作っていたので、それがよかったと思います。授業は15回やらないといけません、祝日や大学の行事が入ったりして、授業のある曜日に15回取れない年もあります。そういう時には補講日を設けてはありますが、少し前までは補講日が設定されている時期は本来休みだった期間なので、まず学生にしてみればイレギュラーな感覚があるわけです。ですがWebCTで授業一回分のコンテンツを作れば、教員が現場にいないというデメリットはありますが、ちゃんとした正規の講義の期間の中で授業ができるわけです。また、今回のような電子コンテンツの場合、学生が好きな時間にしかも何度でも視聴できる点がメリットでしょう。

逆にデメリットは、教員がリアルタイムに学生の面前にいないので、学生が何かわからない時や、聞きたいことがあった時にすぐに聞けないことです。今回の授業一回分のコンテンツでは掲示板をつけていただきましたが、学生とのやりとりで遅延が生じ、そこが少しやりにくかったです。

掲示板に書かれた学生の学問的な質問に関しては私に答える責任がありますが、技術的な質問に対してはコンテンツ作成支援室のスタッフの方にしっかりと対応していただくことができたので、安心して講義内容の対応のみに専念することができました。

#### ■ 「授業一回分に相当するコンテンツ」を実施してみて大変だった点はどこですか。

最初は、私が用意しなければならないパワーポイント資料の量を考えて大変だと思っていました。学会で発表するスライドでは1枚1分なので、90分授業の半分としても45分…つまり45枚のスライドを用意しなければいけないと考えたわけです。ですが、よくよく支援室のスタッフと話をしている中で、「学生はスライド1枚を勉強するのに1分しかかけないわけではないだろうから、枚数をもっと少なくして済むのでは。」と気がつきました。だから、結果的にはそれほど大変ではありませんでした。むしろそれを支援室に渡してから見つかった資料原稿内の修正と、そして今回はナレーションの挿入もしていただきましたので、それらにかかる時間がたくさん必要で大変でした。

#### ■ 「授業一回分に相当するコンテンツ」をまた作ってみたいと思われますか。

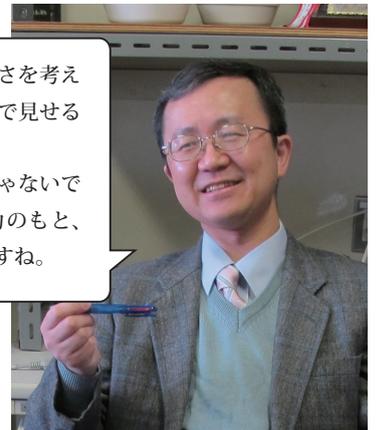
もちろんです。学生が一回分の授業としてのコンテンツを見た時にもっと講義内容を理解しやすいだろうな…ってものを。例えば動画を入れたいんですよ。実写よりもアニメーションがいいと思います。学生のとっかかりやすさを考えると、イラストとかマンガとか絵で見せるテクニックは必要だと思います。でもそういう絵を使ったものは、教員一人ではできません。学術的な話は提供できるけれど、それを学生に提供する、洗練された教育ツールにするにはいろんなスタッフのサポートが必要です。グループとしてプロジェクトを組まないといけません。

今回は、私がサイエンティフィックなところを提供して、それを電子メディアの扱いに慣れていない支援室スタッフに制作を含めてやっていただきました。ただもう一つ、アニメーターというか、デザイナーがいれば…と思いました。サイエンティフィックなストーリー性を持った短いアニメーションを利用することで、学生が少しでも楽しみながら勉強してくれれば、また勉強のきっかけになってくれればいいな、と。「物理化学」という文字だけで拒否反応がある人<sup>†</sup>に、毛嫌いを感じさせないように導入したいのです。

学生のとっかかりやすさ、気安さを考えるとイラストとかマンガとか絵で見せるテクニックも必要だと思う。支援室にもデザイナーがいるんじゃないですか？いろんなスタッフの協力のもと、プロジェクト組んでやりたいですね。

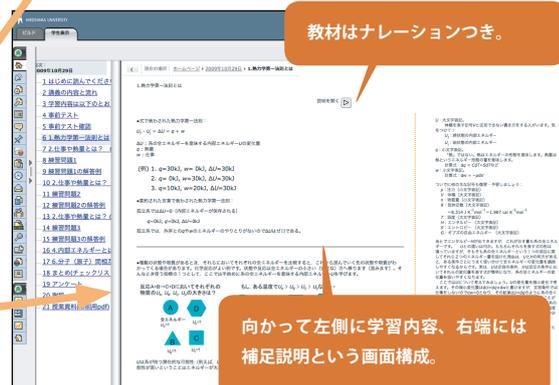
<sup>†</sup>物理化学という名前から物理を連想されるためか、苦手意識を持つ化学科の学生が多いようです。

(2010年1月29日/理学研究科にて)



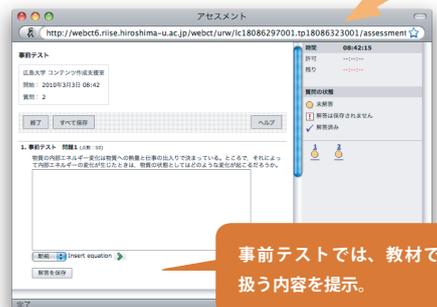


教材の構成の説明と利用する  
上での注意書き。

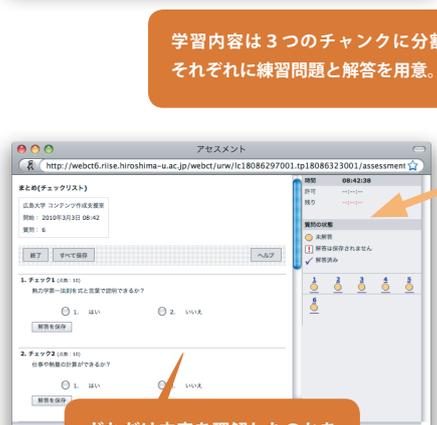


教材はナレーションつき。

向かって左側に学習内容、右端には  
補足説明という画面構成。

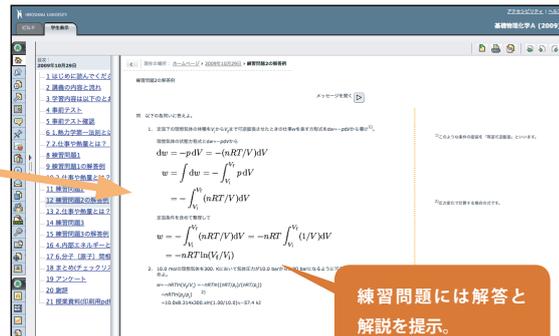


事前テストでは、教材で  
扱う内容を提示。



学習内容は3つのチャンクに分割し、  
それぞれに練習問題と解答を用意。

どれだけ内容を理解したのかを  
まとめて確認して事後テストへ。



練習問題には解答と  
解説を提示。

藤原先生のコンテンツ作成支援メモ

原稿ファイル	PowerPoint
支援内容	原稿のhtml化 ナレーションの録音と設定 テスト、アンケートの設定 掲示板の設置
完成までの期間	1ヶ月

出前講習会やっています

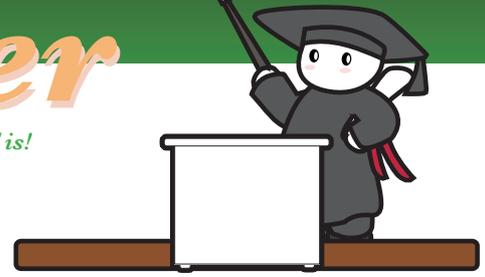


2010年度前期のコース開講準備に向けた出前講習会を実施中です。  
WebCTの利用方法をお知りになりたい方、コンテンツ作成の支援依頼を検討されている方、是非お申し込み下さい。参加者1名でも出前に伺いますので、お気軽にご利用ください。

実施期間 2010年2月15日(月)～2010年4月30日(金)  
内容 受講申込者の希望される日時に研究室などに伺い、個別のご要望にお応えする講習会です。  
申込方法 <http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/demae/> より。

# Newsletter

Professors, we are coming to tell you how useful WebCT is!



今回は、コンテンツ作成支援サービスを利用され、2009年度後期にWebCTプレミアムプロジェクトですすめている「授業一回分に相当するコンテンツ」の作成に挑戦されたお二人の先生をご紹介します。

## WebCT 活用事例(3)：予習資料と復習テストで自学自習を促進させる

### 母性看護方法演習（保健学研究科 中込さと子先生）

#### ■ WebCTを知ったきっかけを教えてください。

数年前から広島大学全体でe-Learningを進める動きがあることは知っていました。ただかつて母校の教員と一緒に看護師対象のe-Learningプログラムを作った際に、お金も時間もかかったという経験から「何かと大変」としか思っていませんでした。WebCTは授業資料を配布するツールとしてしか活用していませんでした。

昨年、コンテンツ作成支援室の出前講習会の案内を見て、せっかく大学にあるリソースなので使ってみようと思い、「1人でもいいですか」って連絡をとって来てもらいました。

#### ■ WebCTをどのように活用されましたか。

この科目は習得すべき知識や課題が多いうえに、看護実践上の思考過程を学ぶ演習科目でもあります。講義時間は限られていますから課外学習の内容が1つのポイントになると思います。今回、私は“self-learning”を促進するツールとしてWebCTを試みてみました。

まず講義に関連した4つの事例を作成し、WebCTに載せました。事例ごとに着目すべき点、分析の視点、判断とそれに基づく看護行為等を解説しました。また図や文字による説明だけではイメージしにくい場面は、動画も提示しました。授業内でもこの事例画面を活用して、徐々に学生も授業とWebCTの資料がどのようにつながっているか判ってきたようです。

次に毎回の授業内で思考力や創造力を高めるためのレポートを書く時間を設け、学生の反応を確認しました。WebCTでは細かな専門知識を確認できるようクイズ形式の問題を設定しておきました。自宅でも大学でも受けられるWeb試験も1度実施しました。

私は動画の活用、新聞記事のリンクなど、e-Learningとして公表するツールの基礎的な理論を知りません。2009年度に教養ゼミで1年生と一緒に「オンライン情報倫理講座」を学びましたが、WebCTを始めるには情報に関する専門家のサポートがないと怖いと思いました。

#### ■ WebCTを使って気づかれたメリットとデメリットは何ですか。

学生からは自己学習しやすかったと言われました。私は今回は活用しませんでした。WebCTはグループ学習にも活かせるのではと思います。

デメリットといえば、コンピューターの文字を長時間見続けなければならないということがあるかもしれません。だから画面上の資料が印刷できるようにしました。学生からは小テストも印刷できると良いのと言われました。

#### ■ WebCTのサポートを受けられた感想をお聞かせください。

100%満足しています。私は“はしり”ではじめてなので、他のコースの支援が忙しかったら、ここまでやってもらえなかっただろうなと思っていました。こんなにサポートを受けられるのは、今だからかな、と(支援室注:

いいえそうではありません。今後がんばります!)。なので、すごくラッキーって感じでした。

それから今回こういう方法だったのですが、授業の方法が蓄積されていくってというのは、やりながら安心でした。それで来年はこうしてみたらもっといいなってことを考えるんです。やっぱり授業って蓄積ですよ。

#### ■ サービスとしてこんなのがあればいいのに、と思われることはありませんか。

クリッカー<sup>†</sup>です。研究室か部局単位で1つあったらよいと思います。

クリッカーを使うと、これに対してどう思う?っていうのを、学生みんなに聞けます。授業では目の前に座っている学生に聞いたり、学生番号を指定して聞くことができますが、「自分に聞いてほしい」とか「自分に聞いてくれたらこうだったな」とか「自分なら、こう答えるのに」って、学生が考えることがあると思います。なので、クリッカーのようにみんなが答えられるようなシステムがあるといいなって思います。医学科にしても、看護学科にしても、いいと思いますよ。

クリッカーを初めて知ったのは、海外の先生が日本に来て講演するのに持って来られていたのを見た時でした。質問に対する回答がぱっと表示されるし、その結果もリアルタイムで集計されるので、凄いいました。聞いてみたら日本でも扱っているって、業者さんに名刺をいただいて。そうしたら広大にもクリッカーを使っている先生がおられたので、自分でも使ってみようって思いました。こういうツールを使って、少し参加型のスキルをみがかせたいです。ディスカッションを扱っているクラスなので、学生はどう思っているのかを確認できますよね。協調学習といえますか。だからクリッカーが欲しいですね。

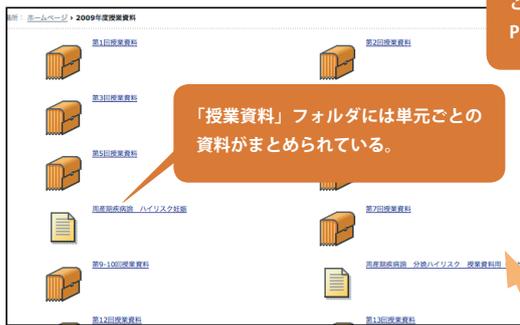
<sup>†</sup>学生の一人一人にテレビリモコンのような小さな装置を持たせ、意見や回答を選択式で答えさせるもの。即座に回答の状況が集計される。



講義で得た知識が臨床でどのように適用されるか、できるだけ学生がイメージできるようにしたいですね。学生たちが自発的に学習していけるよう講義を組み立てるのに四苦八苦しています。

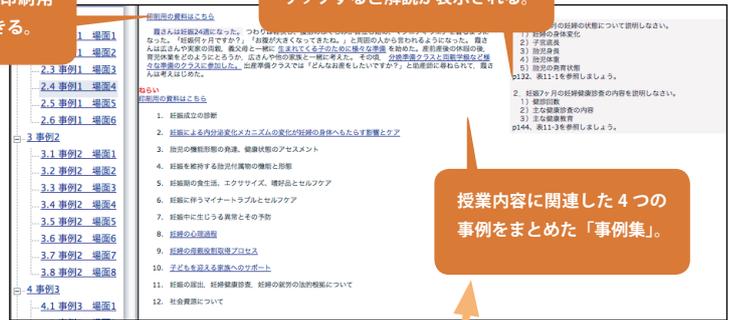
(2010年1月27日/保健科学研究科にて)





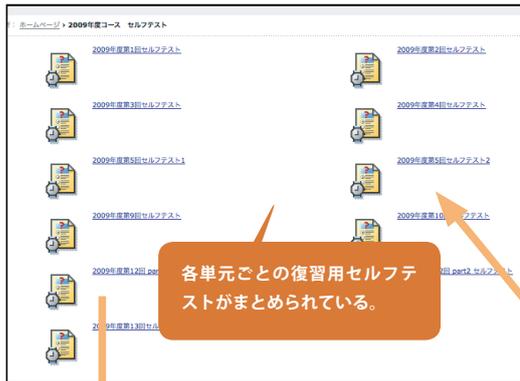
「授業資料」フォルダには単元ごとの資料がまとめられている。

ここをクリックすると印刷用PDFがダウンロードできる。

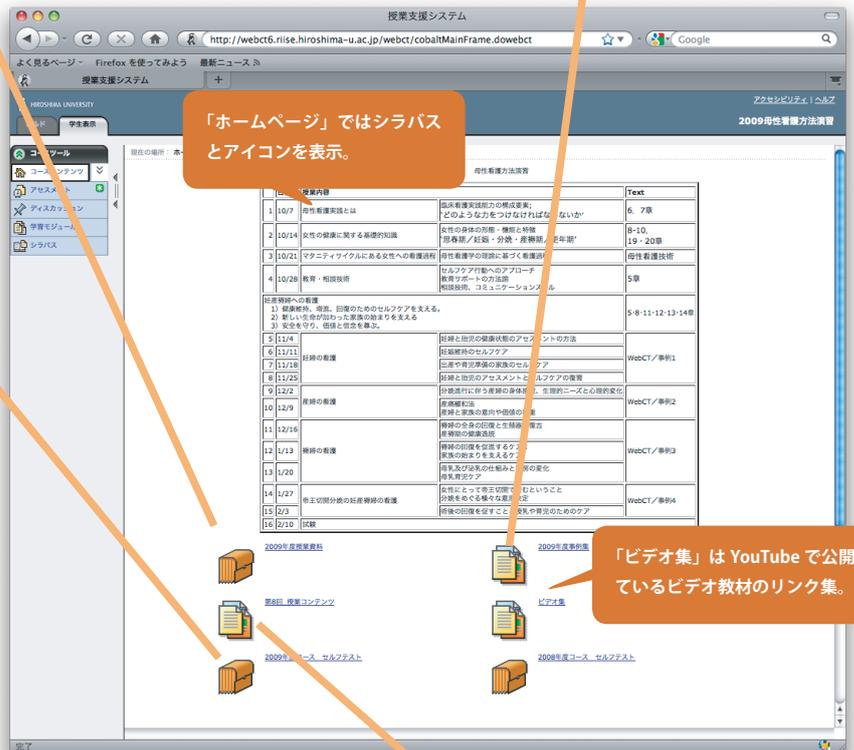


事例でポイントとなる用語をクリックすると解説が表示される。

授業内容に関連した4つの事例をまとめた「事例集」。

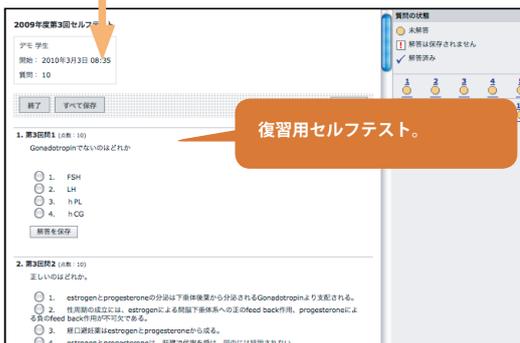


各単元ごとの復習用セルフテストがまとめられている。



「ホームページ」ではシラバスとアイコンを表示。

「ビデオ集」はYouTubeで公開されているビデオ教材のリンク集。



復習用セルフテスト。

中込先生のコンテンツ作成支援メモ

原稿	Word
ファイル	原稿のhtml化
支援内容	テスト、アンケートの設定 掲示板の設置 外部資料へのリンク設定 著作権処理
サポート期間	2009年10月～2010年2月



事例1の復習と中間テストを実施した、中込先生の「授業一回分に相当するコンテンツ」。

チュートリアルを配布します

WebCT CE6 の使い方を説明したチュートリアルガイドの第2版を、コンテンツ作成支援室で作成しました。  
2010年3月下旬から全学教員向けに配布予定です。また2010年4月以降には、下記のURLでPDFも公開予定です。

http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/hajimete/

授業を一回 WebCT でやってみませんか？

今回ご紹介した藤原先生や中込先生のように、授業一回分を WebCT でやってみませんか。興味をお持ちの方は、コンテンツ作成支援室までご連絡ください。

e-mail : els-admin@els.hiroshima-u.ac.jp